

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100618		
法人名	社会福祉法人 広和会		
事業所名	グループホーム ほのぼの青葉	ユニット名	貳番館
所在地	宮崎駅東三丁目9番10		
自己評価作成日	平成26年7月1日	評価結果市町村受理日	平成26年9月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kainokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanistrue&ijiyosyoCd=4590100618-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を施設内に掲示し、毎朝の朝礼でも理念の唱和を行う事で、職員は意識の確認をし、実施につなげている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域に根差した取り組みを行っている。花見、散歩、公共施設見学等を行っている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人建物内に地域交流センターを設けており、地域の方々の利用が可能になっている。地域の方々の施設見学の受け入れを行い、理解を深めて頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、行事の取り組みや利用状況を報告している。地域防災等の取り組みについても、会議にて意見交換を行っている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告等について連携を図っている。災害時の避難場所として、宮崎市と福祉避難場所の締結を行っている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止は十分に理解できている。建物の構造上、離設後の転落防止の意味から玄関の施錠をしているが、利用者も家族も簡単に解錠出来る仕組みとなっている。解錠できる時間もあり、解放に向けての取り組みも実施している。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議でお互いに気を付け合うように話し合い、注意し合える関係作りに努め、全員で虐待行為に至らないように実践している。施設内研修も実施し、意識付けを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者は、現在おられない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に職員との面接や施設見学を実施し、十分な説明を行っている。家族の疑問や不安に対応できるように話し合いの場を設け、その為の面談室も設けている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、担当者会議、園内・外行事で、居室担当を中心に家族とのコミュニケーションをとるように心掛けている。意見箱を設置し、それらの案内も行っている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH職員会議を通し、意見や要望を確認し、対応している。また、全体リーダー会議で、その内容を報告している。新しい取り組みは起案し、承認を得て実施し、サービス向上に反映している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	全体職員会議で経営状態を説明したうえで、職員の経営に対する意識付けを行い、それぞれが経営に参加しているという意識で、やりがいのある職場作りに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH連絡協議会に加入し、認知症についての研修に年1回は参加出来るように取り組み、学んだ研修内容を職員会議で報告し、知識を共有する取り組みを行っている。法人内研修も月2回程計画されていて、参加を促している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に加入しており、研修会参加時に他事業所の方との交流や情報交換を行うように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面接で本人様とよく話し合い、本人様の不安を感じられる場面等を想定し、その対応を話し合い、実践に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や施設見学時に相談や話し合いを行っている。また、居室担当を中心に、要望や不安を聞きとりし、他職員にも伝達して情報の共有を図り、家族への安心を提供出来るように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時には、家族とこまめに連絡を取り合い、本人様の様子や言動などをお伝えし、家族に安心して頂けるようにしている。また、必要物品なども合わせて伝え、補充を促し、本人様が不便なく過ごせるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、食事の配膳、食器洗い、リネン交換、居室の掃除にそれぞれ取り組んで頂いている。利用者同士で声を掛け合って、複数で取り組まれる事もある。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来て下さる方が多く、居室で過ごして頂いたり、喫茶室を活用して頂きながら、家族との時間を自由にすごされている。面会時には、生活の様子をお伝えし、面会のお礼も合わせて伝えるようにしている。また、家族を交えての行事も行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りに行かれたり、自宅の庭の手入れに帰宅されたりされている。家族の協力の下、行っている。馴染みの方の面会時には居室で過ごして頂き、密な時間になるようにしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「一緒に行きましょうや。あの人がいないわよ。」等の会話が聞かれている。同じユニットの方の存在を気にされている様子が見られている。			

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に入院先での状況をお聞きたり、移設先の施設にお顔を見に伺う機会がある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いに関心を寄せ、日々の本人の思いを言葉や表情、態度からくみ取り、把握するように努めている。困難な場合は家族からも情報を得て生かしている			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から得た情報については、記録に残し、情報の共有をしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各居室担当を中心に、一人ひとりの特徴等を把握し、生活に活かせるようにまとめている。まとめたものは情報として記録し、全職員が把握できるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の変化や気付きを日々の記録として残している。また、介護計画に沿った個別記録を行い、介護計画の有効性が確認できるようになっている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	施設利用中にも、利用者を取り巻く環境に悩まれる事があるので、他のサービスの展開についても検討できることを提案している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設利用中にも、利用者を取り巻く環境に悩まれる事があるので、他のサービスの展開についても検討できることを提案している。			

宮崎県宮崎市 グループホームほのぼの青葉(貳番館)

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共施設を活用して、外出行事で地域の自然に触れる機会を設けている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内にのぞきクリニックが開院しているので、気軽に病院受診や内服薬の相談ができ、家族にも安心して頂いている。他院へ受診する際は、かかりつけ医に情報提供を行い、家族が安心して受診に付き添えるようにしている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良の様子が見られた時は看護師に報告し、早めの対処が取れるようにしている。怪我などはすぐに病院受診できるよう、家族への連絡も速めに行うようにしている。1日1回は看護師が健康管理の為にラウンドを行っている。また、夜間もオンコール体制の協力を得ている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の利用者のもとに面会に行き、病院の看護師に様子を確認したり、家族に連絡し、病状確認を行うようにしている。早期に退院できるように、家族にも促すようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調不良者に関しては、かかりつけ医と密な連絡を取り、状態報告をこまめに行う。急変や緊急時に直ぐに対応できるように、看護師にも状態報告を行う。連絡内容は家族にも伝えるようにしている。また、カンファレンス等で急変時の対応の確認等も行い、対処できるようにしている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応に関するマニュアルを作成しており、それに基づき実践している。定例会議で、急変時のマニュアルの確認をしたり、マニュアルを見える位置に置くようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で実施する災害訓練、避難訓練に参加し、各職員がその場に遭遇した時の事を想定し、訓練に臨んでいる。また、運営推進会議のメンバーを中心に、訓練に参加いただくように連携している。			

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念のとおり、人権尊重を旨として、取り組んでいる。実態的には、常に家族等の第三者が会話を聞いていることを意識して声かけを行うように、全員で取り組んでいる。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択しやすい言葉かけの工夫を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴については、本人の意向に合わせて実施。入浴後、食後の休憩、レクリエーション参加も本人の希望で行うようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りの衣類やアクセサリ、口紅をはじめとする化粧品を準備頂いている。外部業者との連携による散髪、パーマ、染髪の実施もしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	前述のとおり、食事の準備や片付けを手伝って頂いている。また、ソフト食を提供するなど、食べやすい状況を作っている。外出時のお弁当作りや季節に合わせたおやつ作りにも取り組んでいる。栄養士による年1回の嗜好調査も行われ、献立の参考にしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事は記録を付けて、一日の合計量が分かるようにし、不足が出ないように注意している。水分量の少ない利用者は、家族に説明をし、好まれる水分を用意して頂いて、その確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に一度、野崎病院歯科に歯科往診と口腔ケアに来て頂き、職員は口腔ケアの指導も受けている。要介助者は、毎食後口腔ケアを実施している。			

宮崎県宮崎市 グループホームほのぼの青葉(弐番館)

自己	外部	項目	自己評価	弐番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時は自尊心に配慮してトイレでの排泄を大切に、本人に合わせたパッドやリハビリパンツの使用を検討し、変更する場合は家族にも説明を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量は記録をつけて一日の合計量が分かるようにし、不足が出ないように注意している。少ない方は、本人の好まれる飲食物を検討して提供している。一日一回体操が実施できるように取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	排泄パターンなども考慮し、入浴を設けている。体調に合わせて、自己にて入浴を決めていただくようにして、中止を決められた場合は下着の交換を促し、後日入浴の調整を行っている。リハビリパンツ着用者は、陰部洗浄を合わせて行うようにしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をされる方が複数おられるが、夜間不眠はみられない。一人ひとりのペースで就寝が行えている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の一覧表は確認できるようにしてあり、副作用についても記載し、服薬についての確認ができるようになっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな飲み物、好きな踊りや歌を楽しんで頂いている。家事は得意な利用者が複数おられ、一緒に取り組むことで、達成感を感じて頂けるようになっている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設で落ち着いて生活されている利用者を見て自宅に連れて帰られたり、外食に出る機会を設けておられる。日常的には散歩に出たり、雨天時は施設内を散歩するなどしている。			

自己	外部	項目	自己評価	弐番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、施設内に持ち込まれない方が多い。必要時は、家族との外出時に買い物されている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から手紙が届けられる方がおられる。返事を書かれる時は、お願いされるので職員が投函している。本人が希望される時は、電話をお繋ぎしたり、また、家族からの電話の取り次ぎをして支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内温度・湿度は記録し、調整の目安にしている。また、利用者にも確認し、空調の調整を行っている。ユニット内を行事に合わせて飾りつけしたり、利用者の作品を掲示するなどして、季節感を感じて頂けるようにしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにテーブル、ソファ、椅子等を置き、自由に腰かけられるようにしている。また、気の合った利用者同士で同じテーブルで食事を摂って頂く等、配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた家具を持ち込まれたり、家族との写真を飾られたりしている。鉢植えやソファをもちこまれ、ゆっくりできる空間になっている。また、テレビや加湿器等も持ち込まれ、快適な空間になるようにされている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に応じて、ベッドやソファの位置やテーブルの位置を変更するなどし、安全な環境作りを心がけている。			